

舟石川・船場地区 村政懇談会

日 時：平成24年7月19日（木） 午後7時～9時10分

場 所：舟石川コミュニティセンター 会議室

参加者：村執行部（村長，副村長，教育長，理事，総務部長，総合政策部長，福祉部長，経済環境部長，建設水道部長，教育次長，議会事務局長）

事務局（課長，副参事，課長補佐，自治推進課職員2名） 計16名

自治会長（船場区，舟石川1区，舟石川2区）

一般社団法人自治会連合会（事務局長，事務局職員2名）

参加者：船場区…19名，舟石川1区…29名，

舟石川2区…9名，その他…37名

計94名

報道関係：茨城新聞社，未来への風・いちから

司会進行：舟石川2区自治会長

1. 開会
2. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
3. 地区自治会長あいさつ
4. 村長あいさつ並びに村政に関する説明
5. 行政からの説明
 - ①「東日本大震災の教訓を活かしたまちづくり推進プラン」について
 - ②「原子力センター構想（仮称）」について
6. 「行政からの説明」についての質問

○白方区住民

「東日本大震災の教訓を活かしたまちづくり推進プラン」についての質問です。原電へ個人的に質問状を送りました。「事故発生時に，リアルタイムで住民に知らせるシステムはできたのか」の質問に対する回答は，「原電は事故発生時，住民に知らせるつもりはないので，自治体（村）から知らせてもらえばいい。」とのことでした。住民に知らせる方法については，現在自治体（村）と相談中です。とのこと。その後どうなったのか，教えて頂きたいと思います。

また，3月11日から15日までの冷温停止状態になるまで，24回程自治体に通報・連絡があったと聞きましたが，本当でしょうか。そのことを村民は知らされていないと思いますが，回答をお願いします。

○経済環境部長

事故に関する情報をどのように提供しているのか。とのことですが，地震，津波については，今年度から全国瞬時警報システムのJ-アラートで放送する形をとって

舟石川・船場地区 村政懇談会

ます。携帯電話では、エリアメールで範囲を決めながら、順次携帯電話に情報が入っていくという形で対応をしています。

原電からの情報は、FAXで入ってきました。その内容は、行政内で判断し、今回は、生活に関係することを中心に放送を行っていきましたが、住民への情報が非常に少なかったと感じており、申し訳なく思っております。

○白方区住民

FAXが壊れたり、携帯電話が通じない時はどうするのでしょうか。福島のような状態になった時に、住民が情報を知る手がかりが何もないということになるのではないのでしょうか。

○経済環境部長

エリアメールというのは緊急速報版で、普通の携帯電話とは違う形で入ってくる情報です。これは行政からも送れるし、地域を指定し送ることもできます。

防災無線においては、屋外スピーカーの電源は、最低でも3日以上もつようなバッテリーに交換しています。

○ 村長

3.11のときの東海村の対応については、反省点があります。原電からの情報は、FAX回線が繋がらず、情報はすぐには入って来ていませんでした。最初の段階で自動停止したという情報は入ってききましたが、その後途切れて、夜の11時になってから連続的に第5報まで入ってききました。自動停止したことや津波の情報はあまり入っていませんでした。15日の午前0時に冷温停止状態になるまでに、24報まで入ってききました。

福島原子力発電所がそのような状態になっているのに、地元の原子力発電所はどうなっているのか。住民の皆さんは不安を持っていたはずですが、それに対しての村からの報道回数は、非常に少なかったと思います。詳しい情報を出せなかったことは反省しており、今後対応を考えていきたいと思っています。

現実問題として、断水、停電、道路の補修等生活関連が中心となっていました。その点は御理解頂きたいと思っています。しかし、残念ながら村としての対応が不十分でありましたし、改善を図っていこうと思っております。

○舟石川1区住民

「東日本大震災の教訓を活かしたまちづくり推進プラン」の資料を読むとこの組織は素晴らしいと思うが、この体制を作り上げるのにどの位の時間を想定しているのか。

また、自助・共助・公助とあるが、体制ができて上がるまでの村からの援助をどのよ

舟石川・船場地区 村政懇談会

うに考えているのか。

停電時、コミセンのガスは使えないのに、人が集まった場合はどうするのか。

○総合政策部長

プランは理念という意味合いで書いていますので、具体性に乏しいのは事実です。これ以外に行政内では地域防災計画の見直しが課題となっています。避難所の運営マニュアル等の具体的な検討が必要と考え、これを外に出すには少し時間を頂きたいと思います。コミセンの電源の20%を太陽光で賄うとか、ガスが遮断されても使えるような仕組み等を考えて、文書化をする等明文化し、目にみえる形にしていきたいと思っています。もう少しお時間を頂きたいと思っています。

7. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答

8. 「地区自治会からの事前質問・要望に関する回答」についての質問

○舟石川1区住民

「地域防災機能向上のための要望書」についての質問です。それぞれの項目に対して、もっと具体的に、どのように実現していくのかを示して頂きたいと思います。

○経済環境部長

防災計画関係は地域によって考え方が異なるものなので、たたき台は行政で作成しますが、具体的な中身はお互いに協議しながら、避難マニュアルを作成していくことを考えています。

また、原子力関係については、国がはっきりしていないところもあるので、国の見解が出てから相談しつつ進めていきたいと考えています。

○舟石川1区住民

防災無線受信機の電池は、どの位持つのでしょうか。私の家の受信機は、停電の状態では1時間位しか持たないと思います。検証をお願いしたいと思います。

○経済環境部長

個別受信機関係は、コンセントがさしてあっても電池が無い状態の時にピーっと音がしたりするようです。電池でどの程度持つのか、調べて後で回答します。今後、ラジオ付受信機に変えていく予定です。

○舟石川1区住民

舟石川・船場地区 村政懇談会

通学路の件ですが、東海村環境村民会議の生活環境部会や、みちづくり塾において協議されており、説明を聞きますと、みちづくり基本計画が、うまく機能していないように感じるので、連携をとって進めて頂ければと思います。よろしくお願いします。

○建設水道部長

平成24年度からスタートしたみちづくり基本計画についての説明は、自治会連合会の理事会や定例会を通じて行っていく予定です。また環境村民会議の中でも、連絡をとりあって説明をしていきたいと思います。

○船場区住民

信号機の設置についての質問です。回答では警察に要望しているとなっておりますが、最初に要望したのが、平成16年です。最初は個人的に立哨していたのですが、今は当番制になっています。村は、要望していますとは言いますが、あと何年待てばいいのでしょうか。前に、みちづくり塾で試験的にスピードを測ったりしたこともありますが、それも活かされていないようですので、あとどのくらいたてば私たちは安心して子どもを通学させられるのかお聞かせ下さい。

○経済環境部長

要望書は以前にも出していたということですが、私はつい最近見ました。6号国道からの車、お墓側からの車が多いので、信号機又は横断歩道をつけた方がよいのか、また、その手前に押しボタン式の信号機があるので、警察とも協議をし、子どもたちが一番安全な渡り方ができるような方式を考えていきます。

○船場区自治会長

毎回警察に要望しても、調査すると「必要ない」と却下されてしまう。子どもたちが多いのは、朝の7時～7時15分位で、40～50名程度が渡っています。横断歩道を2ヶ所渡る必要があり、子どもが1人では渡れません。まずは、そのような話し合いを土俵にのせて頂きたい。子どもたちが事故に遭ってからでは遅いので、信号機だけでなく、周辺の道路全般のことも考えて頂きたいと思います。

○建設水道部長

先ほど、みちづくり基本計画の話をしました。具体的な進め方を考えているところ。自治会で、どこに問題の個所があるのか。どのような問題があるのか等を抽出して頂き、これから議論をし、子どもたちや人にやさしい道を作っていきたいと考えています。

舟石川・船場地区 村政懇談会

○司会者

今後具体的に検討するということを、確約して頂けますか。

○建設水道部長

どのような手法でやっていくのかは確約できませんが、これから検討・協議していきたいと思います。

○船場区住民

みちづくりの同じ質問になりますが、先ほどの回答の中で、今回の質問に対する回答なのか、過去の要望に対するものなのか、また、今後どう進めていくのか。どのような要望をいつ頃出すのか明確にしてもらいたいと思います。

過去に要望して却下された信号機の設置ですが、信号機同士が近すぎる、昼間の交通量が少ないので必要ない。ということだそうです。現在の信号機を移設するという提案もしています。この件も協議して盛り込んで頂けないか。ということも合わせて質問します。

○経済環境部長

この件について、私が承知したのは今年度になりますので、これは新たな要望になると考えています。

交差点の在り方をどう考えるのかということですが、手前の押しボタンの信号の移設については、広くなった道からの通学者がどの位いるのか等も含めて調査が必要と考えます。

○船場区住民

通学路や子どもたちのことを確認して頂き、その上で現場をよく見てほしいと思います。

○船場区住民

この件については前から要望しているが、役場は異動に伴う引継ぎがなされていない。子どもの命は大切です。船場区は人口が増えてきています。立哨する人がいないと車は止まりません。それを行政が確認した上で対応して下さい。警察は昼間の子どもたちがいない時に調査にきています。

○船場区住民

私は立哨のとりまとめをしています。現在は当番で立哨を行っていますが、当番が不在の場合、子どもたちは横断歩道を大人なしで車を止めなければなりません。とて

舟石川・船場地区 村政懇談会

も危険で、大人が旗を振っても止まらないこともあります。朝は立哨当番がいますが、下校時は子どもたちだけで通っています。

以前に船場地区でこの話を役場とした時に、信号機の移設に関しては地域住民の了承が必要とのことでした。私たちも出来ることは一緒に考えますので、手続きの仕方や参加の仕方等教えて頂きたいと思っています。警察に出向くにしても個人的にアポをとった方がいいのか、それとも地域として東海村として参加させて頂けるのかを教えてくださいたいと思います。

○経済環境部長

要望については、まず村で確認し、その上で警察にいく形の方がよいと思います。この件に関しては、かなり前から要望がありましたが、動きが鈍かったようですので、該当する子どもの人数確認等も行いながら、警察と一緒に村としての回答をつくっていきたいと考えます。

9. 自由質問

○舟石川1区住民

3. 11の時に一番困ったのは水です。コミセンの井戸及び井戸水マップはいつ頃できるのですか。

○経済環境部長

井戸は発注済です。今年度中にコミセン6館全てに井戸を設置する予定です。井戸水マップについては、地域によって多少違ってくるとは思いますが、舟石川・船場地区においては井戸の場所等の把握のために自治会を通じて、現在協力依頼の回覧板がまわっています。最終的には消防防災課がまとめていきます。なお、井戸水マップは行政が作成します。

○舟石川一区住民

6月にJCOでゴミ焼却炉をつくるための住民説明会がありました。当日の説明で、転換試験棟にゴミ焼却炉をつくることを初めて聞きました。事前に転換試験棟につくるとの説明はありませんでした。また、住民に説明した内容と報道関係（新聞社等）に説明した内容で、ごみの焼却量にも違いがありました。行政ではこのことをどのように考えているのでしょうか。

○経済環境部長

村には、JCO から2月に実施計画の概要について話がありました。その後6月に住民説明会がありました。新聞の件ですが、可燃物の紙類や作業服等がドラム缶で2

舟石川・船場地区 村政懇談会

〇〇本、油関係が500本あり、それらを焼却すると伺っております。不燃物関係は文科省と相談しながら進めていくとのことでした。

なお、焼却炉の設置場所は違うところを考えているようです。

○舟石川一区住民

住民説明会の後、処理するドラム缶の本数が560本から700本に変わっていました。行政も住民もJCOに愚弄されているのではないのでしょうか。

事業計画書がきた時には、きちんと書面を読み、確認することが大事ではないでしょうか。

○村長

誠に申し訳ございません。おっしゃる通りだと思います。

毎年3月に新年度の設備計画が提出されてくるのですが、その内容についての検討が不十分だったと思います。私自身もJCOは何もないだろう、と思っていました。後から住民の方から、臨界事故を起こした第3管理棟で、廃棄物のうち可燃物を焼却して処理することを聞きました。われわれの方が住民の安全を守ると言いながら、その点が不十分であったと反省しております。第3管理棟では行わないとしても、敷地内で行うと思うので、数量や数値をきちんと把握し、住民の皆様に報告していきたいと思います。

○舟石川区住民

事故後、東海村の原子力安全懇談会が開かれましたが、委員の選定の基準はどのように行われているのですか。

○村長

原子力安全懇談会のメンバーは、JCOの臨界事故の後、村内の原子力関係のOB、原子力関係に携わってきた日立製作所のOB、そして地域の方を公募して選びました。その後、明確な選定基準は設けていません。

基本的には村民という立場で考えています。決して推進サイドで結論を出すようなことはしていません。

批判もあるということ踏まえた上で、中立的な観点で行っていけるようにしたいと考えます。

10. 閉会